


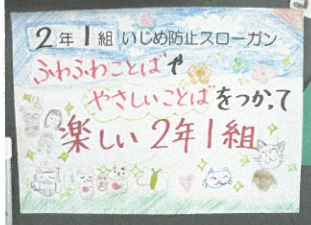
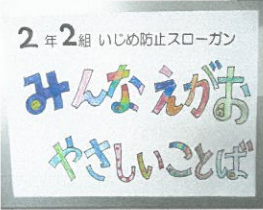
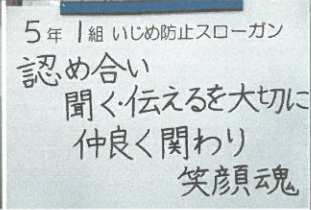


令和 7 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一 宮 市 立 丹 陽 小 学 校	学校 No.	1 1
<p>1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>(1) 目標</p> <p>社会が互いに人と人の助け合いによって成り立っていることに気づかせたり、体験活動を通して、自分が社会の一員であることを自覚させたりする。また、自分に何ができるかを考えさせることで、よりよく生きようとする気持ちを育てる。</p> <p>(2) 計画と推進体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福祉実践教室【5年生：総合的な学習の時間】</li> <li>赤い羽根共同募金などの募金活動【児童会】</li> <li>人権週間・人権集会【児童会、学活】</li> </ul> <p>2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>(1) 福祉実践教室</p> <p>5年生が「車いす」と「手話体験」を行った。「車いす体験」では車いすの扱い方や介助の仕方を学び、車いすに乗る役と介助役の両方を体験した。カラーコーンで障害物を作ったり、マットで段差を作ったりして、車いすの安全な扱い方を学んだ。「手話体験」では、聴覚障害者とのどのようにコミュニケーションをとればいいのかを考え、実践的に学ぶことができた。どちらも、相手を思いやる心が大切であることを理解することができた。</p> <p>(2) 募金活動への参加</p> <p>児童会が中心となって、赤い羽根共同募金に取り組んだ。児童集会で児童会のメンバーが活動内容を説明したり、児童会だよりやポスターで募金活動の意義を知らせたりして活動を盛り上げた。</p> <p>(3) 人権週間・人権集会</p> <p>児童会が中心となり、人権についてクラスで話し合いを行った。クラスごとに、いじめ防止スローガンを作り、人権についての意識を高めた。</p>	     		
<p>3 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>子どもたちは、車いすによる移動の大変さや介助の適切な方法を学ぶことができた。また、手話体験では、障害のある方の努力や工夫について深く考えることができた。子どもたちは、普段できない体験活動や講師の先生の貴重なお話を通して、障害のある方々の切実な思いを知ることができた。そして、「社会の中で自分たちに何ができるか」ということを考えるよい機会となった。さらに、日常生活の中で積極的に行動しようとする思いを強くもつことができた。</p> <p>今後こうした体験活動を大切にしながら、福祉に対する児童の理解をさらに深めていきたい。そして、自分たちにできることを実行していく場を設け、実践力を育てていきたい。</p>			

## 2025年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立丹陽西小学校	学校No.	12
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>(1) 目標 さまざまな障がいのある方の気持ちや苦労を理解するとともに、人に対する思いやりの心を育てる。</p> <p>(2) 計画 5年生 : 福祉についての調べ学習(9月) 福祉実践教室(10月) 全 校 : 緑の募金(5月) 赤い羽根募金(11月) あいさつ運動(通年)</p> <p>(3) 推進体制 5年生は総合的な学習の時間に、全校活動は児童会・委員会活動において推進する。</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>(1) 福祉についての調べ学習 総合的な学習の時間に、副読本「ともに生きる」やインターネット、書籍を活用して、福祉についての調べ学習に取り組み、調べたことを報告文にしてまとめた。(9月)</p> <p>(2) 福祉実践教室 車いす、手話、点字、ガイドヘルプの体験を行い、障がいのある方への理解を深める活動に取り組んだ。(10月)</p> <p>(3) 緑の募金 緑化委員会が中心となって、緑の募金に取り組み、募金活動の意義を啓発した。(5月)</p> <p>(4) 赤い羽根募金 児童会・代表委員会が中心となって、赤い羽根募金に取り組み、募金活動の意義を啓発した。(11月)</p> <p>(5) あいさつ運動 毎月第3月曜日が「あいさつデー」となっており、学校と保護者、地域が一体となって、あいさつ運動に取り組んだ。(通年)</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>福祉についての調べ学習や福祉実践教室を通して、障がいのある方への理解を深めることができた。体験的に学んだことにより、さまざまな人の立場に立って物事を考えることや個性を認めることの大切さに気づくことができた。また、募金活動やあいさつ運動を通して、主体的に行動していくことのよさを学ぶことができた。</p>			

**※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。**

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

## 2025年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立丹陽南小学校	学校No.	13
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>本校では、「みんなそれぞれ にとっておきの一人」を指導の基本理念として教育活動を進めている。一人一人がかけがえのない存在であり、互いに尊重し合うことの大切さを学ぶことができるよう、様々な活動に取り組んでいる。本校では、地域の方に見守り隊、学習支援ボランティアとして多く関わっていただいている。この地域との関わりが、福祉の面で大変有効であり、子どもたちの成長に大きな役割を担っている。また、障害のある状態を体験することで、思いやりの心が育まれていくと考えた。そこで、実践にあたっては、次に掲げることを目標として活動を計画した。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>目標 高齢者、障害のある人や、地域の方々との関わりを通して、思いやりの心を育むとともに、相手を尊重する態度を育てる。</p> </div> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>(1) 体福祉実践教室による体験活動</p> <p>①手話体験では、講師の先生に簡単な手話の方法を教えていただいた。また、講師の先生に教えていただいた手話を児童も一緒に行った。</p> <p>②ガイドヘルプでは、講師の先生に白杖の使い方や、階段などの段差や狭い道を誘導する際の手順や注意事項を教えていただいた。その後、児童がアイマスクで目をした児童を補助しながら校舎内の階段や障害物が置いてある廊下を歩いた。</p> <p>③点字体験では、講師の先生に点字の読み方、打ち方を教えていただいた。その後、実際に自分の名前や簡単な自己紹介の文を点字で打ち、講師の先生に読んでいただいた。</p> <p>(2) 地域の方との繋がりを深める取り組み 地域の方々には登下校を見守っていただく「見守り隊」や、教室で児童に読み聞</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>福祉実践教室では、全体講義や各体験を通して、講師の先生方の思いを強く感じ、真剣に活動に参加していた。また、日常生活の中で困っている人がいたら自分たちに何ができるかを考えることができた。そして、力になりたいという気持ちを育むことができた。</p> <p>地域のボランティアの方とのふれあいの中で、地域の方々に見守られていることを実感した児童は、低学年に優しく声をかけたり、元気にあいさつしたりするなど自分の周りにいる人に対して思いやる姿が見られるようになっている。</p> <p>今後も、様々な場面で児童が主体的に学び、思いやりの心を育むことができるような活動を考えていきたい。</p>			

**※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。**

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

## 2025年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立浅井南小学校	学校No.	14
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>（1）目 標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体の不自由な人の体験や募金活動を通して、障害のある人に対する理解を深める。</li> <li>・一人一人が大切にされているという実感をもたせるとともに、お互いに認め合える人間関係を作り、優しく思いやりのある豊かな心を育てる</li> </ul> <p>（2）計画・推進体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉実践教室の実施（5年）</li> <li>・価値語（4年）</li> <li>・赤い羽根の募金（全学年）</li> </ul>			
<p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>福祉体験教室（5年）</p> <p>10月に、車いす・手話・点字の体験活動に取り組んだ。「車いす体験」では、車いすの扱い方や介助の仕方を学ぶとともに、足の不自由な方が何に困っているのかなど、体験を通して知ることができた。「手話体験」では、簡単な手話の練習や、手話の他にも自分の気持ちを伝える方法がたくさんあることを学んだ。その中のいくつかの方法を実際に体験したが、それらは伝えるための単なるツールであり、一番大切なのは『伝えたいと思う気持ち』であることを学んだ。こうした体験を通して障害を持っている方の苦労や、自分にできる支援について考えることができた。</p> <p>価値語（4年）</p> <p>1年間を通して、学年で使っていきたいと思う価値のある言葉、『価値語』に取り組んだ。友達を喜ばせる言葉を児童が自分たちでたくさん考えて、使っていくことができた。</p>			
<p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>活動を通して、体の不自由な人についての理解を深めたり、地域の文化を大切にしていこうという気持ちを高めたりすることができた。価値語では、友達から嬉しい言葉を言われることで、自己肯定感が高まり、より価値語を使いたいという思いが広まっていった。その結果、優しく思いやりのある豊かな心を育てることができた。しかし、児童が自ら進んで地域の活動やボランティア活動に参加するまでには至っていない。今後も福祉に関する体験活動や、地域の一員である自覚を高める体験活動、交流活動を進め、さらに優しく思いやりのある豊かな心を育てていきたい。</p>			



**※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。**

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

## 2025年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立浅井北小学校	学校No.	15
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>(1) 目標 高齢者や障害のある方との交流を通して、お互いのよさを認め合い、思いやりのある心豊かな生活ができるようにする。</p> <p>(2) 計画 福祉実践教室を通して、障害のある方と交流し、体の不自由な人の大変さを知る。老人福祉施設「ウエルコートみづほ」を訪問し、高齢者の方たちと交流する。</p> <p>(3) 推進体制 学校運営機構に、人権・福祉教育部を組織し、全校体制で取り組む。</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>(1) 福祉実践教室（1月） 福祉実践教室を通して、障害のある方と交流したり、車いす体験やガイドヘルプ体験をしたりすることで、体の不自由な人の大変さについて知り、自分にはどんな支援ができるかを考える機会となった。</p> <p>(2) 福祉老人施設との交流（通年） 各学年が福祉老人施設「ウエルコートみづほ」に訪問し、高齢者の方たちと交流する活動を通して、思いやりの心や、社会性を育むよい機会となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年…国語で学習した物語の読み聞かせをしたり、手作りのしおりを渡したりした。</li> <li>・中学年…学習発表会で発表した「エイサー」を披露した。絵手紙をかき、お年寄りにプレゼントした。</li> <li>・高学年…児童が考えたクイズをお年寄りとともに楽しんだ。歌やリコーダー演奏も披露した。</li> </ul> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉実践教室や老人福祉施設との交流（訪問）を通して、体の不自由な人や、お年寄りの大変さや苦勞について考えるきっかけとすることができた。また、立場が弱い人たちへの配慮が必要であることに気付き、自分にはどんな支援ができるか考えたり、ボランティアへの関心を高めたりすることができた。</li> <li>・福祉体験や施設訪問がその時だけの経験で終わるだけでなく、ここで学んだことを日々の生活に生かせるよう、活動を振り返らせたり、広げたりできるように児童に働きかけていきたい。</li> </ul>			



**※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。**

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。